

講演要旨

2016年8月5日 小倉英世

東大淡青会 公開セミナー@円覚寺
第1回 2016年7月26日

演題：「今北洪川老師に学ぶ」

講師：円覚寺管長 横田南嶺老大師

(別添 レジメ参照)

1. 洪川禪師なくば 円覚寺は「円覚寺跡」の石碑を残すのみ。

一昨年・昨年とこの公開セミナーでは、開山・仏光国師(1226-1286)、北条氏滅亡後の禅宗の危機を救った第十五世・夢窓国師(1275-1351)、円覚寺中興の祖・大用国師(1745-1820)について話したが、今回は明治期の第二百二世・今北洪川禪師を取り上げて勉強する。

明治維新により幕府からの支援が無くなり、廃仏毀釈の大波の中で、円覚寺も断法の危機に瀕した。洪川禪師は学問と修行を長く続けてこられた方で、禅に対して揺るぎない考えをもって事態に対処し円覚寺を守りきり、従来 修行者と為政者のものであった坐禅を広く一般に開放し(正伝庵、居士寮の開設)、優れた人材も多く輩出した。

鈴木大拙も居士寮にて洪川禪師に接する機会があったことにより 深く禅を感じ、その後禅の書物を英訳してアメリカ・ヨーロッパに紹介し、彼の地でのZENの広がり礎を築いた。

2. 長期間に渉る学問と修行 儒から禅へ

- 誕生 : 文化13年(1816年) 儒者の父。
- 7歳 : 四書五経をそらんず。
- 19歳 : 儒塾にて勉学し、19歳にて儒塾を開く。
- 25歳 : 出家。孔子も釈迦も別人に非ず。
- 27歳 : 解脱。
- 47歳 : 「禅海一瀾」を著す。
- 60歳 : 円覚寺住持職。
- 77歳 : 明治25年(1892年)1月16日遷化。

3. 「禅海一瀾」 儒教の言葉を禅の立場から解釈した本。

第三則 惟聖

心の本性は孔子では「仁」、釈迦では「慈悲心」。

人間の本質は同じである。それをはっきり見ている人が聖人である。